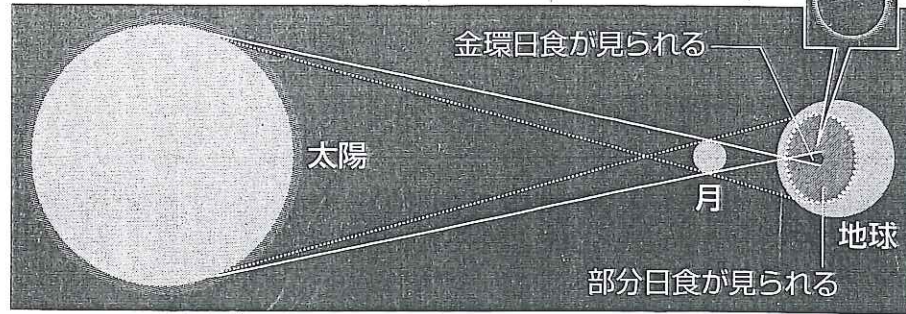


安全に観察しよう 5月21日金環・部分日食



熊本市	始まり 午前6時14分35秒 最大 // 7時24分14秒 終わり // 8時44分44秒
鹿児島市	始まり 午前6時12分49秒 最大 // 7時22分11秒 終わり // 8時42分26秒



日本地図の網かけ部分が金環日食が見られる金環食帯。県内を北側の限界線が横切っており、南側で金環、北側で部分日食となる

観察方法

ピンホール投影機で太陽の像を見る

○ 日食観察
グラスを使う

✕ 曇り空でも
直接見ない

注意!!

- ◆ 太陽を直接や望遠鏡、双眼鏡で見ない
- ◆ 観察に色付きの下敷きやサングラスを使わない
- ◆ 長時間、太陽を見続けることを避ける (違和感や疲れを感じたら観察を中止)

※国立天文台などの資料をもとに作成

「曇り空でも太陽を直接見ないことを徹底してほしい。長時間連続して見るのはやめ、違和感を感じたら間接的な観察に切り替える」と村上さん。

万が一、目に違和感を感じたら、「速やかに眼科を受診し、どのようにして太陽を見たのか正確に伝えてほしい」と話す。

最も安全な方法として村上さんが薦めるのが、厚紙に開けた小さな穴に光を通して、太陽の像を地面や紙に映す間接的な観察。専用グラスを使う場合も、周りからの光を防ぐため、グラスをなるべく目に近づけるなどの工夫が必要という。

太陽が月に隠れリング状に
金環日食 県南で

21日朝 2〜3分間

太陽の中心部が月に隠され、縁だけがリング状に残る「金環日食」が21日朝、水俣・芦北や人吉・球磨地域など県南部で観測され、県内の他の地域でも太陽の大部分が隠れる部分日食となる。現象が起きる原因や、観察の注意点をまとめた。

熊本市立熊本博物館の天文担当学芸員、原秀夫さん(34)によると、日食は地球と月、太陽が一直線に並び、太陽の中心部が月に隠れ、縁だけがリング状に残る「金環日食」が、四国、近畿、東海、関東地方に入った。北限の境界線が県南部を横切る。

地球を回る月の軌道と、太陽を回る地球の軌道は5度ほどずれ、まれにしか観測されない現象だ。月の軌道は楕円形のため、地球と月の距離は約36万3千〜約40万5千キロと変動。近い時には太陽がすべて月に隠れる皆既日食となり、



村上茂樹さん

直接見ない／専用グラス使って

日食観察の際、太陽を直接見ると、目を傷める恐れがある。眼科医は専用のグラスを使うなどして、注意して観察してほしい。村上茂樹さん(52)は強調する。

部分日食となる熊本市では午前6時14分から太陽が欠け始め、同7時24分ごろ、最大となり、約93%が月に隠れる。県南部では7時23分前後の計2〜3分間ほどが金環食となる。

「地面に映る木漏れ日も欠けた太陽の形になる。急な気温の低下も考えられる。周囲の様子も観察しよう」と原さん。「6月6日には、太陽の前を金星が横切る現象も起きる。日食をきっかけに、天文現象に興味を持ってほしい」と話す。

気象庁によると、過去30年間の5月21日の熊本晴天率はちょうど50%。国内で次に金環日食が見られるのは2030年。場所は北海道だ。

不適切な方法で観察した場合に生じる目の障害は「日食網膜症」と呼ばれる。①視力低下②目の奥に違和感③視野の中心に影ができる④物がゆがんで見える⑤などの症状が出る場合があるという。肉眼や望遠鏡、双眼鏡だけでなく、色つきの下敷き、サングラスでの観察も厳禁だ。